

ホモチスチン尿症と高メチオニン血症

名城病院小児科 川村 正彦

毎年発表される厚生省からの先天性代謝異常症の発見数の中のホモチスチン尿症については、数があまり多いことと、本当にホモチスチン尿症であったか否かについては長く疑問を持たれて来た。今回55年度のデータについて詳細な再調査を行い、この疑問を解消すべく努力してみた。方法は各県の代謝異常スクリーニングセンターに問い合わせ、そこからさらに報告された症例を管理している病院へと問い合わせを進め集計した。その結果、厚生省へホモチスチン尿症として報告された8例中、本当に本症であったものは0、すべて持続性、一過性の高メチオニン血症であった。実は厚生省の発表の表にはホモチスチン尿症とは別に「その他」の項があり、ここに高メチオニン血症その他の発見された症例を記載している県も多く、すべてを調査してみると、55年度、持続性の高メチオニン血症は6例であった。

調査を行って考えることは、県の衛生部、検査センターで報告の基準が一定していないのでこうした混乱があるので、ホモチスチン尿症の項はなくして高メチオニン血症として一本化することが望ましいことと、確定診断がついた症例を正確に集計して真の発生頻度を出すための調査、集計をすることも必要である。

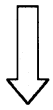
先天代謝異常スクリーニングの実施状況について

日本母性保護医協会 森山 豊
五味淵政人
皆川 進
住吉 好雄
黒島 淳子

昭和55年（1～12月）の先天代謝異常スクリーニングの実施状況を、日本母性保護医協会全国47支部および検査センターへの問い合わせの結果につきまとめ、集計、検討した。

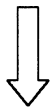
I. 検査実施数

全国検査実施総数は1,473,864人であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



毎年発表される厚生省からの先天性代謝異常症の発見数の中のホモチスチン尿症については、数があまり多いことと、本当にホモチスチン尿症であったか否かについては長く疑問を持たれて来た。今回 55 年度のデータについて詳細な再調査を行い、この疑問を解消すべく努力してみた。方法は各県の代謝異常スクリーニングセンターに問い合わせ、そこからさらに報告された症例を管理している病院へと問い合わせを進め集計した。その結果、厚生省へホモチスチン尿症として報告された 8 例中、本当に本症であったものは 0、すべて持続性、一過性の高メチオニン血症であった。実は厚生省の発表の表にはホモチスチン尿症とは別に「その他」の項があり、ここに高メチオニン血症その他の発見された症例を記載している県も多く、すべてを調査してみると、55 年度、持続性の高メチオニン血症は 6 例であった。